対馬新聞

長崎県下県郡厳原町日吉
合資会社 対馬新聞社
郵便番号 817
電話 09205 ② 0235
発行人 三山 忠
毎週金曜日発行
印刷／㈾厳原印刷所
購読料 1カ月1,000円
（郵送料共）
振替口座 01750-4-33895
十八銀行対馬支店 ㊐ 10040
親和銀行対馬支店 ㊐ 24600

社説

社会の進展に活眼を

西日本新聞によると九州二十一世紀委員会が四月四日福岡国際ホールで総会開催、本年度テーマとして「アジアなどを全視野に入れ新しい九州像を探す」で三委員で討議した。

総会での委員の主な発言二十数氏の意見が紹介され各界代表の意見は夫々の立場識見を伺い知る。中でも「九州を一行政体として」平松大分県知事（九州知事会長）の卓見には同感である。

松早石油社長は「離島の多い九州はツーリズム資産として可能性を活かせ」自からの離島開発の貴重な体験からの発言は傾聴に値する。また熊本大学教授佐藤誠氏は「自然との共生や地域の文化や人々とのふれあいなど新しい考え方ライフスタイルに基づいた新観光ツーリズムは二十一世紀の基幹産業となるであろう」など関心の持てる意見と受け止めた。

また二十一世紀委員会はこのほど大分県湯布院町で「次期全国総合開発計画と九州の地域づくり」をテーマに座談会を開き論議が交された。委員中に旧知の中谷健太郎氏（湯布院温泉観光協会長）の意見の中で「地方の豊かな自然が壊されないようにするだけでもハード的措置が相当いる、これからは都市に地下鉄をつくるよりも山林の保全に費用をかけるべきだ」と問いかけた。

前記二つの会議討論で多くの意見中一部を除き矢張り離島問題は少なかった。是は何を意味するか。離島があまり問題にされてないのではないかと思う。

先般唐津市で開催の「一日国土庁」に例の日韓トンネル研究会から出席し構想提言をと進言したにも拘わらず選に洩れたとは残念であった。九州本土から壱岐・対馬経由の韓国迄の海底トンネル夢の大構想、日本側は十年間で大部分の調査を了え諸種の事情で進行がにぶっているが韓国側が熱心で近く九州視察にそして対馬視察にも来島予定である。

全国国土総合計画の中には豊予海峡（四国と九州を結ぶ）連絡路や長崎―熊本―鹿児島の例の三県架橋等具体化が進捗中である。

対馬の定住人口減に歯止め策なしとすれば交流人口増加策を計れと前長崎対馬会長扇道徳氏及び東京対馬会有志数名からも助言があった離島僻地と諦めず日進月歩の現代に即応の新しい心構えで活眼を開き知恵を出そう。

先日長崎で松谷蒼一郎参議の科学技術政務次官就任祝賀会での挨拶や祝辞等を拝聴し科学技術の進歩と重要性に理解を深め特にその感を強くした。